

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-30
研究課題名	東日本大震災前後における腸腰筋膿瘍患者宮城県全県調査
研究期間	西暦 2012年 4月（倫理委員会承認後）～ 2017年 3月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（）
上記材料の採取期間	西暦 年 月～ 年 月
意義、目的	<p>腸腰筋膿瘍は特異的な症状がなく診断、治療が遅れることが多く、適切な治療が早期から行われなければ死亡率は高い。本症は臓器別診療を主体とした現在の医療では専門の治療科が存在せず確立した治療方針はない。</p> <p>当施設ではこれまで本症で重篤な敗血症性ショックを来した症例を多く経験し、積極的に外科的ドレナージを行い良好な治療効果を得ている。</p> <p>さらに2010年から2011年にかけて14例の腸腰筋膿瘍が当施設にて治療がなされ、特に東日本大震災後3か月以内に7例発生が見られた。これは震災による医療機関の機能低下により紹介が増加したことと、震災による衛生状態悪化により発生率が上昇した可能性が考えられる。</p> <p>今回、宮城県内における腸腰筋膿瘍、および主な周辺疾患(硬膜外膿瘍、化膿性脊椎炎)の発生状況を詳細に調査し、治療状況とその後の転帰について、また東日本大震災との関連を明らかにすることが本研究の目的である。</p>
方法	東北大学（以下本学）より各医療機関に対してアンケート形式の書類（別紙参照）を送付、各医療機関において、腸腰筋膿瘍と周辺疾患を罹患した患者情報（来院日時・原疾患・治療法・転帰など）を記載し、本学へ返送してもらう。本学の役割は、各医療機関から送られてきたデータを集計し、解析することである。データの管理とデータ解析は本学大学院医学研究科外科病態学講座救急医学分野が担当する。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 高度救命救急センター 助教 佐藤 武揚 022-717-7489